

土を守る者は滅びず 上川「土」基金上川賞を受賞

泉谷地区棚田を守る会（上岡満栄会長・会員15人）は6月27日、「上川『土』基金上川賞」を受賞しました。

同賞は元JA愛媛たいき組合長の上川好邦さんが設立した基金で、農業振興や地域発展を担う農業者の育成と功労者の顕彰を目的としています。

同会のオーナー制度や小学生の農業体験などが、農業を次世代につなげる活動として高く評価されました。上岡会長は「活動が評価され、大変うれしい。賞を通じて棚田の良さを知ってもらえたら」と話しました。



泉谷の棚田の前で表彰状を手にする上岡さん

災害から地域を守るために 防災意識を高める講演会



防災気象情報の効果的な利用方法などを説明した藤原さん

南海トラフ巨大地震などに対する防災意識を高めようと「防災キャラバン内子」が6月29日、内子町文化交流センターで開かれました。

まず愛媛大学防災情報研究センター准教授の二神透さんと松山気象台次長の藤原清さんが講演。

二神さんは過去の災害記録や大地震の被害想定を示し、「恐れるのではなく、正しく備えることが大切」と説きました。

上川自主防災会の室岡勝彦さんは、避難支援が必要な人を把握するマップづくりなど、同会の取り組みを発表しました。



1_選手と入場する五十崎スポーツ少年団(青)
2_合戦を終えた大風。会場を大いに盛り上げた

大風合戦で大勝利を呼び込む 愛媛FCマツタウンデー

サッカーJ2リーグに参戦する愛媛FCのホームゲームが6月28日、ニンジニアスタジアムで開かれ、ロアッソ熊本と対戦しました。

この日は内子町と伊予市のマツタウンデーで、試合会場に五十崎の大風が登場。大風合戦で愛媛FC対ロアッソ熊本の前哨戦を行いました。大風が一斉に空を舞うと、観客席から「オーツ」という歓声が上がリ、会場を盛り

り上げていました。

町内のスポーツ少年団に所属する小学生たちは選手と入場。試合会場の外にはフレッシュパークからりが出店し、内子町をPRしました。

試合は後半早々、愛媛FCが先取点を挙げると、その後も立て続けに得点。4-0で圧勝しました。MVPに藤直也選手が選ばれ、オーベルジュ内子のペア食事券が贈られました。

三位一体の妙技に触れる 文楽公演を前に入門講座

8月23、24日の内子座文楽公演の前に、より文楽に親しんでもらおうと、初心者向けの文楽入門講座「なるほど・ザ・文楽」(内子座文楽公演実行委員会主催)が7月1日、内子座で開かれました。

西予市出身の吉田和生さんなど5人が、文楽を構成する太夫・三味線・人形の3部門について解説しました。

まず豊竹芳穂大夫さんが、声の高低や早さなどで年齢や性別を演じ分けて

人形遣いの体験などもあり、参加者は文楽の魅力

る技を披露。三味線の鶴沢清公さんは、艶やか音を出すとき使う「にじる」弾き方などを紹介しました。最後に吉田さんから3人が、人形遣いを実演。「女性の人形は表情がなく、動きで感情を表現する」「主遣いの合図で、足遣い、左遣いがとつさに動く」などと説明しながら、三位一体の妙技を披露しました。



1_顔の動かし方などを説明する吉田さん 2_吉田さんの手引きで人形遣いに挑戦する参加者

災害時の心構えをしつかりと 天神小学校で児童らが避難訓練

天神小学校(山岡晋校長・児童180人)は7月1日、地震を想定した避難訓練を行いました。

同校は26年度、国の「学校防災教育実践モデル地域研究推進事業」に取り組みしており、年間を通じて防災を学んでいます。児童たちは緊急地震速

報を聞いて避難した後、松山地方気象台地震津波防災官の米田知生さんの講話を聞きました。内子消防署の指導の下、煙を体験したり、地震体験車で揺れを体験したりして、いざというときに自分の身を守る方法を、真剣に学んでいました。



頭を守りながら避難する児童たち

元内子町役場職員が主人公 「反骨の公務員、町をみがく」

岡田文淑さんのまちづくりの40年を追った「反骨の公務員、町をみがく」(森まゆみ著)が5月23日、(株)亜紀書房から出版されました。

昭和33年に旧内子町役場に入庁した岡田さんは、八日市護国地区の保存運動や石畳地区の村お

こしなど、内子町の町並み・村並み保存に大きな功績を残しました。

岡田さんは本の内容に触れ「体制的な職員には真のまちづくりはできない。住民のために果たす役割を理解して、町の未来を考えて」と役場の後輩たちを激励しました。



岡田文淑さんと出版された本